拝啓

ジリジリと太陽が照り返す中、夏休みを迎えようとしています。

現在中2の次女が長期に渡る五月雨登校から復学へとご支援頂き、お休みする事無く1年が過ぎました。無遅刻無欠席で皆勤が出来ている事だけでなく、学校での様子を話す笑顔、何よりも嬉しく感謝するばかりです。

次女は、小学校5年生の後半頃から、苛々やテストに対する不安・拒否を訴え行き渋り初めました。小4の時の引越しによる環境の変化、宿題や課題の増加に過干渉・指示・命令・提案・子上位の子育て等様々な要因があったと思います。赤ペンCheckオンパレードですね。ある時、お友達と楽しく遊んで別れた後「私はもう[redacted]の家には帰らない！絶対に帰らない！！」と憑かれたような形相で手を振り解いて一人で電車に乗ってしまおうとする事がありました。専門もどうどう言うようになり、専門の困窓を手伝ったりし学校に行かせていました。理由は、漢字大会の勉強が出来ていないとか、マラソン大会の練習があるとか皆がこなしている物でした。行かなくてはいけないとわかって

いるけど行けない娘は、車の中でブルブル震えて動く事が出来ませんでした。暫く自分の気持ちを落ち着けて、ようやく車の中から出てくる状態でした。「私は人形じゃない!!」と不登校中に泣きながら叫んだ事があります。思春期に差し掛かろうかという年齢にも拘わらず幼い子対応をして子供を息苦しくさせていたのかもしれません。今から思えば、私自身も、娘ののんびりしたリズムよりも祖母の生活リズムを優先しなければならない生活に苛々していた毎日だったのかもしれません。「いいわ。どうせ○○やろ、どうせ出来ないし」が口癖。プレッシャーに弱く、スグに挫けるというストレス耐性・自己肯定感の低い娘でした。

その間、ネットで調べたり、紹介して貰ったカウンセラー・診療機関・不登校対応の小児科・スクールカウンセラーと方々相談したり、漢方薬を頂いたりしました。学校の先生からは「一旦来てしまえば、楽しそうで問題ありませんよ。」と。しかしながらうつがあり、朝起きられず1日ゴロゴロ寝ている。何をするのも億劫そうで動けない。

苛々する等不安定な日々。こんな状態でしたが、「受験が終わったら何したい？」と聞いた時に、「学校に行きたい!!」と即答した娘。どうしても学校に行かせてやりたかった。親としてどう対応すれば、子供の気持ちは安定するのか、甘えずに乗り越えられるのか、ストレス耐性がつくのか、学びたく家庭教育を お願い致しました。

最初1週間は泣きながらに登校していた日もありましたが、それほど強い意識の変化がなければ、その時にまた甘え継続登校出来なかったのではないかと思います。先生にきっかけを与えて頂いたお陰で、勉強の体調不良では休まない習慣を取り戻し、あれほど自分の事を話さなかった娘が、将来の夢も話し、優しい笑顔を家族に振り撒いてくれます。これも、学校生活の中で沢山の方々に支えられ、自分の居場所に戻る事が出来たお陰だと思います。「私は今迄色んな事から逃げていたけど、頑張っている今が、楽しいよ。」あの時の事をこう話していました。

当初の目的だけでなく、限りなく普通の中学生生活に近づけるようにと、対応を教えて頂き、勉強も自分の問題として取り組むようになりました。家庭内の歪みにも気付かせて頂きました。性格の違う二人の娘にあった対応を教えて頂き、私自身も自分を見つめ直す時間的余裕が出来ました。親発信しない・苛々助長しない・傾聴する。親として言える立場の構築など様々な事を教えて頂き、心掛けてはおりますが、未だに感情的に対応してしまい、反省の日々を過ごしています。

不登校に関して様々な対応があります。五月雨状態・長期不登校状態・虐め等々。「どう対応あれば毎日休まず通えるようになりますか」と最後の望みを託して相談に行ったスクールカウンセラーに「受験や卒業式に焦点を当てて息切れしないように休ませる勇気も必要。」と言われ、休ませる事を認めざるを得ない状況だった時もありました。しかしながら、どのような状況においても子供も親も決してHappy

な生活とは思えないのではないでしょうか。

社会の中で、一人の女性として役割を担え、自分の足で生きて行けるように、小さな失敗経験を積む姿を見守る。親も子も家族の中で認め合いリラックスし、学校や社会での体験を応援する。そんな和やかな家族関係を築けるようご指導頂きました事に感謝申し上げますと共に、学びを忘れないように過ごしていきたいと思います。

最後になりましたが、感謝を込めて先生のご活躍とご健勝をお祈り致します。

敬具

2010年7月 [redacted]